

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5051182号  
(P5051182)

(45) 発行日 平成24年10月17日(2012.10.17)

(24) 登録日 平成24年8月3日(2012.8.3)

(51) Int.Cl.

F 1

A 4 7 B 83/04 (2006.01)

A 4 7 B 83/04

A 4 7 C 19/22 (2006.01)

A 4 7 C 19/22

B

A 4 7 C 19/22

A

請求項の数 7 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2009-136570 (P2009-136570)  
 (22) 出願日 平成21年6月5日(2009.6.5)  
 (65) 公開番号 特開2010-279619 (P2010-279619A)  
 (43) 公開日 平成22年12月16日(2010.12.16)  
 審査請求日 平成24年2月23日(2012.2.23)

早期審査対象出願

(73) 特許権者 000139780  
 株式会社イトーキ  
 大阪府大阪市城東区今福東1丁目4番12号  
 (74) 代理人 100074561  
 弁理士 柳野 隆生  
 (74) 代理人 100124925  
 弁理士 森岡 則夫  
 (74) 代理人 100141874  
 弁理士 関口 久由  
 (72) 発明者 中嶋 祐一  
 大阪市城東区今福東1丁目4番12号 株式会社イトーキ内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ベッドと机の組合せ家具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ミドルベッドのベッド部の下方の空間部にラックやタンス等の複数の収納体を配置し、ベッドの前面側に机を配置して使用するベッドと机の組合せ家具において、前記机の天板の上面より高い位置の前記空間部に、書籍等の物品を収容可能な上部空間を確保するとともに、全ての収納体の棚板同士又は上面板同士又は特定の収納体の棚板と他の収納体の上面板の高さを略同一に設定し且つ前記机の天板の高さと、前記収納体の棚板又は上面板の高さを略一致させ、前記ベッドの前面側で、前記机の側部又は後部を前記収納体に近接させて配置し、前記机の天板と前記収納体の棚板又は上面板とを連続させて該棚板又は上面板を手元棚として利用することを特徴とするベッドと机の組合せ家具。

10

【請求項 2】

前記机の天板の上面の高さと、前記収納体の上面板の上面の高さを略一致させ、該上面板の上面を手元棚として利用してなる請求項 1 記載のベッドと机の組合せ家具。

【請求項 3】

前記机の天板の横幅を奥行幅の2倍に設定し、少なくとも二つの横幅が同じ収納体を有するとともに、該収納体の横幅を机の天板の奥行幅に略一致させてなる請求項 1 又は 2 記載のベッドと机の組合せ家具。

【請求項 4】

ミドルベッドのベッド部の下方の空間部にラックやタンス等の収納体を配置し、ベッドの前面側に机を配置して使用するベッドと机の組合せ家具において、前記机の天板の上面

20

より高い位置の前記空間部に、書籍等の物品を収容可能な上部空間を確保するとともに、前記機の天板の上面の高さと、前記収納体の上面板の上面の高さを略一致させ、前記ベッドの前面側で、前記機の側部又は後部を前記収納体に近接させて配置し、前記機の天板と前記収納体の上面板とを連続させて該上面板を手元棚として利用することを特徴とするベッドと機の組合せ家具。

【請求項 5】

前記機の天板の横幅を奥行幅の 2 倍に設定し、少なくとも二つの横幅が同じ収納体を有するとともに、該収納体の横幅を機の天板の奥行幅に略一致させてなる請求項 4 記載のベッドと機の組合せ家具。

【請求項 6】

ミドルベッドのベッド部の下方の空間部にラックやタンス等の収納体を配置し、ベッドの前面側に机を配置して使用するベッドと機の組合せ家具において、前記機の天板の横幅を奥行幅の 2 倍に設定し、少なくとも二つの横幅が同じ収納体を有するとともに、該収納体の横幅を機の天板の奥行幅に略一致させ、前記機の天板の上面より高い位置の前記空間部に、書籍等の物品を収容可能な上部空間を確保するとともに、前記機の天板の高さと、前記収納体の棚板又は上面板の高さを略一致させ、前記ベッドの前面側で、前記機の側部又は後部を前記収納体に近接させて配置し、前記機の天板と前記収納体の棚板又は上面板とを連続させて該棚板又は上面板を手元棚として利用することを特徴とするベッドと機の組合せ家具。

【請求項 7】

前記ミドルベッドの空間部の前面側寄りには、背後に広い空間部を残して複数の収納体を並べて設置するとともに、複数の前記収納体の内、一つを下面にキャスターを設けた移動型ラックとした請求項 1 ～ 6 何れかに記載のベッドと機の組合せ家具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ベッドと機の組合せ家具に係わり、更に詳しくは手元棚を利用できるベッドと機の組合せ家具に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来から、二段ベッドの上段ベッド部又はミドルベッドのベッド部の下方を開放して空間部を形成し、該空間部内に、机を始め、ラック（整理棚）、書棚、タンス等を配置して複合化した家具は各種提供されている。ここで、二段ベッドの場合、空間部の高さが高いため、空間部内で机を使用することができるよう、例えばベッドの脚部に天板を支持した構造のものもある。勿論、独立した机をベッドの空間部に配置することもある。一方、ミドルベッドの場合、ベッド部の高さが 120cm 以下と定められているので、空間部内では窮屈なためベッドの空間部内には、ラックや書棚を配置し、机をベッドの前面側に配置して使用することが多い。この場合、机を使用しないときに空間部内に押し込んで格納することもある。

【0003】

例えば、特許文献 1 には、上段をベッド部とするとともに、下段を作業空間部とし、該作業空間部に机を配してなるベッドと機の組合せ家具であって、前記ベッド部の四隅を支持する 4 本の支柱のうち、正面側の一对の支柱間を開放部とし、他の支柱間を上下に間隔を置いて複数の横棧で連結するとともに、該横棧を利用して棚板等のオプションに係止可能としたベッドと機の組合せ家具が記載されている。この特許文献 1 に記載のものは二段ベッドをベースとしており、空間部内に配置した机に手元棚を設けることができた。

【0004】

また、特許文献 2 には、上段をベッド部とするとともに、下段を空間部としたベッドと、該空間部に机、整理棚及びタンスを押し込み格納可能となっているベッドと機の組合せ家具が記載されている。前記ベッドは、両側に配した側部脚の上部間に側柵体を連結する

10

20

30

40

50

とともに、両側部脚と側柵体とで囲まれた上部に床部材を保持してベッド部を構成したものであり、ミドルベッドを前提としている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開2004-024425号公報

【特許文献2】特開2008-301976号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

10

しかしながら、従来のミドルベッドを前提とした机との組合せ家具では、ベッドの空間部にラックやタンスを配置し、机をベッドの前面側に並べて配置して使用するが、机の近くには着座したまま容易に使用できる手元棚が存在しなかった。つまり、机の天板の高さと比較してラックの棚板が極端に低かったり、また机の天板とラックの上面板が同一高さであっても、ラックの上面板の上方に空間がなく、上面板の上の空間を棚板として使用できるものはなかった。

【0007】

そこで、本発明が前述の状況に鑑み、解決しようとするところは、ミドルベッドのベッド部の下方の空間部にラックやタンス等の収納体を配置し、ベッドの前面側に机を配置して使用するベッドと机の組合せ家具において、机の近傍に手元棚を設けて使用勝手を向上させたベッドと机の組合せ家具を提供する点にある。

20

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明は、前述の課題解決のために、ミドルベッドのベッド部の下方の空間部にラックやタンス等の複数の収納体を配置し、ベッドの前面側に机を配置して使用するベッドと机の組合せ家具において、前記机の天板の上面より高い位置の前記空間部に、書籍等の物品を収容可能な上部空間を確保するとともに、全ての収納体の棚板同士又は上面板同士又は特定の収納体の棚板と他の収納体の上面板の高さを略同一に設定し且つ前記机の天板の高さと、前記収納体の棚板又は上面板の高さを略一致させ、前記ベッドの前面側で、前記机の側部又は後部を前記収納体に近接させて配置し、前記机の天板と前記収納体の棚板又は上面板とを連続させて該棚板又は上面板を手元棚として利用することを特徴とするベッドと机の組合せ家具を構成した（請求項1）。

30

【0009】

また、前記机の天板の上面の高さと、前記収納体の上面板の上面の高さを略一致させ、該上面板の上面を手元棚として利用してなることも好ましい（請求項2）。

【0010】

また、前記机の天板の横幅を奥行幅の2倍に設定し、少なくとも二つの横幅が同じ収納体を有するとともに、該収納体の横幅を机の天板の奥行幅に略一致させてなることも好ましい（請求項3）。

【0011】

40

また、本発明は、ミドルベッドのベッド部の下方の空間部にラックやタンス等の収納体を配置し、ベッドの前面側に机を配置して使用するベッドと机の組合せ家具において、前記机の天板の上面より高い位置の前記空間部に、書籍等の物品を収容可能な上部空間を確保するとともに、前記机の天板の上面の高さと、前記収納体の上面板の上面の高さを略一致させ、前記ベッドの前面側で、前記机の側部又は後部を前記収納体に近接させて配置し、前記机の天板と前記収納体の上面板とを連続させて該上面板を手元棚として利用することを特徴とするベッドと机の組合せ家具を構成した（請求項4）。

【0012】

ここで、前記机の天板の横幅を奥行幅の2倍に設定し、少なくとも二つの横幅が同じ収納体を有するとともに、該収納体の横幅を机の天板の奥行幅に略一致させてなることが好

50

ましい(請求項5)。

【0013】

また、本発明は、ミドルベッドのベッド部の下方の空間部にラックやタンス等の収納体を配置し、ベッドの前面側に机を配置して使用するベッドと机の組合せ家具において、前記机の天板の横幅を奥行幅の2倍に設定し、少なくとも二つの横幅が同じ収納体を有するとともに、該収納体の横幅を机の天板の奥行幅に略一致させ、前記机の天板の上面より高い位置の前記空間部に、書籍等の物品を収容可能な上部空間を確保するとともに、前記机の天板の高さと、前記収納体の棚板又は上面板の高さを略一致させ、前記ベッドの前面側で、前記机の側部又は後部を前記収納体に近接させて配置し、前記机の天板と前記収納体の棚板又は上面板とを連続させて該棚板又は上面板を手元棚として利用することを特徴とするベッドと机の組合せ家具を構成した(請求項6)。

10

【0014】

更に前述の発明において、前記ミドルベッドの空間部の前面側寄りには、背後に広い空間部を残して複数の収納体を並べて設置するとともに、複数の前記収納体の内、一つを下面にキャスターを設けた移動型ラックとすることがより好ましい(請求項7)。

【発明の効果】

【0015】

以上にしてなる請求項1に係る発明のベッドと机の組合せ家具は、ミドルベッドのベッド部の下方の空間部にラックやタンス等の複数の収納体を配置し、ベッドの前面側に机を配置して使用するベッドと机の組合せ家具において、前記机の天板の上面より高い位置の前記空間部に、書籍等の物品を収容可能な上部空間を確保するとともに、全ての収納体の棚板同士又は上面板同士又は特定の収納体の棚板と他の収納体の上面板の高さを略同一に設定し且つ前記机の天板の高さと、前記収納体の棚板又は上面板の高さを略一致させ、前記ベッドの前面側で、前記机の側部又は後部を前記収納体に近接させて配置し、前記机の天板と前記収納体の棚板又は上面板とを連続させて該棚板又は上面板を手元棚として利用するので、机に着座したまま、机の天板の奥部又は側部に位置する収納体の棚板又は上面板に書籍や物品を載置して使用することができ、またその出し入れも容易であり、机として使用する場合の書籍等の収納空間を十分に確保することができ、更に机に近い全ての収納体で机の天板と略同じ高さの棚板又は上面板を手元棚として利用できるのも、手元棚を確保しつつ机の配置に対する自由度が高くなる。

20

30

【0016】

請求項2によれば、前記机の天板の上面の高さと、前記収納体の上面板の上面の高さを略一致させ、該上面板の上面を手元棚として利用してなるので、手元棚を確保しつつ机の配置に対する自由度が高くなる。

【0017】

請求項3によれば、前記机の天板の横幅を奥行幅の2倍に設定し、少なくとも二つの横幅が同じ収納体を有するとともに、該収納体の横幅を机の天板の奥行幅に略一致させてなるので、机の後部をベッドの前面側に近接して配置すると、天板の横幅と二つの収納体の合計横幅が略一致し、また机の側部をベッドの前面側に近接して配置すると、天板の奥行幅と一つの収納体の横幅が略一致するので、外観性に優れる。

40

【0018】

請求項4に係る発明のベッドと机の組合せ家具は、ミドルベッドのベッド部の下方の空間部にラックやタンス等の収納体を配置し、ベッドの前面側に机を配置して使用するベッドと机の組合せ家具において、前記机の天板の上面より高い位置の前記空間部に、書籍等の物品を収容可能な上部空間を確保するとともに、前記机の天板の上面の高さと、前記収納体の上面板の上面の高さを略一致させ、前記ベッドの前面側で、前記机の側部又は後部を前記収納体に近接させて配置し、前記机の天板と前記収納体の上面板とを連続させて該上面板を手元棚として利用するので、机に着座したまま、机の天板の奥部又は側部に位置する収納体の棚板又は上面板に書籍や物品を載置して使用することができ、またその出し入れも容易であり、机として使用する場合の書籍等の収納空間を十分に確保することがで

50

き、手元棚を確保しつつ机の配置に対する自由度が高くなる。

【 0 0 1 9 】

請求項 5 によれば、前記机の天板の横幅を奥行幅の 2 倍に設定し、少なくとも二つの横幅が同じ収納体を有するとともに、該収納体の横幅を机の天板の奥行幅に略一致させてなるので、請求項 4 の効果に加えて、机の後部をベッドの前面側に近接して配置すると、天板の横幅と二つの収納体の合計横幅が略一致し、また机の側部をベッドの前面側に近接して配置すると、天板の奥行幅と一つの収納体の横幅が略一致するので、外観性に優れる。

【 0 0 2 0 】

請求項 6 に係る発明のベッドと机の組合せ家具は、ミドルベッドのベッド部の下方の空間部にラックやタンス等の収納体を配置し、ベッドの前面側に机を配置して使用するベッドと机の組合せ家具において、前記机の天板の横幅を奥行幅の 2 倍に設定し、少なくとも二つの横幅が同じ収納体を有するとともに、該収納体の横幅を机の天板の奥行幅に略一致させ、前記机の天板の上面より高い位置の前記空間部に、書籍等の物品を収容可能な上部空間を確保するとともに、前記机の天板の高さと、前記収納体の棚板又は上面板の高さを略一致させ、前記ベッドの前面側で、前記机の側部又は後部を前記収納体に近接させて配置し、前記机の天板と前記収納体の棚板又は上面板とを連続させて該棚板又は上面板を手元棚として利用するので、机に着座したまま、机の天板の奥部又は側部に位置する収納体の棚板又は上面板に書籍や物品を載置して使用することができ、またその出し入れも容易であり、机として使用する場合の書籍等の収納空間を十分に確保することができ、更に机の後部をベッドの前面側に近接して配置すると、天板の横幅と二つの収納体の合計横幅が略一致し、また机の側部をベッドの前面側に近接して配置すると、天板の奥行幅と一つの収納体の横幅が略一致するので、外観性に優れる。

【 0 0 2 1 】

請求項 7 によれば、前記ミドルベッドの空間部の前面側寄りには、背後に広い空間部を残して複数の収納体を並べて設置するとともに、複数の前記収納体の内、一つを下面にキャスターを設けた移動型ラックとしたので、収納体の背後の広い残余空間部に普段は使用しない大型の物品を保管することができ、そして移動型ラックを前方へ移動させて通路を形成すれば、該通路を通して大型物品を出し入れすることができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 2 】

【図 1】本発明のベッドと机の組合せ家具の正面置き使用形態を示し、机の後部をベッドの前面側に近接した配置した状態の斜視図である。

【図 2】本発明のベッドと机の組合せ家具の L 型置き使用形態を示し、机の側部をベッドの前面側に近接した配置した状態の斜視図である。

【図 3】本発明に係るベッドと収納体の関係を示す分解斜視図である。

【図 4】図 2 の使用形態の縦断面図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 2 3 】

次に、添付図面に示した実施形態に基づき、本発明を更に詳細に説明する。図 1 及び図 2 は本発明のベッドと机の組合せ家具の代表的な使用形態を示し、図 1 は正面置き、図 2 は L 型置きを示し、図 3 はベッドと収納体の関係を示す分解斜視図、図 4 は L 型置きの使用形態の縦断面図であり、図中符号 1 はミドルベッド、2 は机、3 は収納体をそれぞれ示している。

【 0 0 2 4 】

本実施形態のミドルベッド 1 は、全高が 1 2 0 c m 以下のものあり、ベッド部 4 の一側を固定的な脚体 5 で支持し、他側を着脱可能且つ付け替え可能なボックス体 6 で支持している。前記ベッド部 4 は、両側に配した側部支持板 7、7 の間に側柵体 8、8 を連結するとともに、両側部支持板 7、7 と側柵体 8、8 とで囲まれた下部に床部材 9 を保持して構成している。そして、一方の前記側部支持板 7 に前記脚体 5 を連結し、あるいは側部支持板 7 と脚体 5 を一体に設けている。前記ボックス体 6 は、前記ベッド部 4 の他側を載置し

、ボルト等で連結している。

【 0 0 2 5 】

前記机 2 は、天板 1 0 の両側を脚体 1 1 , 1 1 で支持するとともに、天板 1 0 の下面で両脚体 1 1 , 1 1 の上端部間に引出し 1 2 を設けた通常の構造のものであり、足入れ空間には移動可能なワゴン 1 3 を配置できるようになっている。ここで、本実施形態では、前記机 2 の天板 1 0 の横幅を奥行幅の 2 倍に設定している。

【 0 0 2 6 】

前記ミドルベッド 1 のベッド部 4 の下方には空間部 1 4 を有し、前記机 2 の天板 1 0 の上面より高い位置の前記空間部 1 4 に、書籍等の物品を収容可能な上部空間 1 5 を確保している。ここで、前記上部空間 1 5 の高さを 1 0 c m ~ 4 0 c m の範囲としている。この上部空間 1 5 の高さが 1 0 c m より低いと書籍を立てて収容することができず、物品を収容するのに十分とはいえない。また、上部空間 1 5 の高さが 4 0 c m より高いと、子供用の机 2 の天板 1 0 の高さが 6 0 ~ 7 0 c m とすれば、ベッド部 4 の上下寸法が 1 0 ~ 2 0 c m 以下となって現実的でない。更に好ましくは、上部空間 1 5 の高さを 1 5 ~ 3 0 c m とするのが実用的である。また、前記ミドルベッド 1 のベッド部 4 には、一方の側部支持板 7 に梯子 1 6 を掛けて乗り降りする。

【 0 0 2 7 】

前記収納体 3 は、前記ミドルベッド 1 の空間部 1 4 内に収まる上下寸法を有し、前面側にオープンな棚を有することを基本としている。前記収納体 3 として、本実施形態では静置型ラック 3 A、移動型ラック 3 B 及びタンス 3 C の 3 種類のものを使用している。まず、静置型ラック 3 A は、底面板 1 7 と上面板 1 8、両側面板 1 9 , 1 9 及び背面板 2 0、更に単又は複数の棚板 2 1 , ... から構成されている。移動型ラック 3 B は、前記静置型ラック 3 A の底面板 1 7 の下面にキャスター 2 2 , ... を設けたものであり、その他の構成は静置型ラック 3 A と同じである。そして、タンス 3 C は、底面板 2 3 と上面板 2 4、両側面板 2 5 , 2 5 及び背面板 ( 図示せず )、更に上部に棚板 2 6 を設けるとともに、該棚板 2 6 より下方に引出し 2 7 , ... を多段に設けたものである。

【 0 0 2 8 】

本実施形態では、前記収納体 3 の高さは、前記ミドルベッド 1 の空間部 1 4 内に収容可能なぎりぎりの高さに設定し、静置型ラック 3 A と移動型ラック 3 B の最上段の棚板 2 1 及びタンス 3 C の棚板 2 6 の高さを前記机 2 の天板 1 0 の上面の高さと略一致させている。ここで、「略一致」又は「略同じ」とは、製造誤差を有することと、床面の不陸の影響により「完全に一致」又は「完全に同じ」にはならないことを考慮した表現である。

【 0 0 2 9 】

本実施形態では、前記ミドルベッド 1 の空間部 1 4 に、静置型ラック 3 A、移動型ラック 3 B 及びタンス 3 C を並べて配置できるようにしている。前記静置型ラック 3 A と移動型ラック 3 B の横幅は同じであり、前記机 2 の天板 1 0 の奥行幅にも略一致させている。前記ミドルベッド 1 の脚体 5 の前端部内側には、前記収納体 3 の間の隙間を埋めるための調整板 2 8 を設けている。

【 0 0 3 0 】

そして、前記ミドルベッド 1 のベッド部 4 の下方の空間部 1 4 に収納体 3 , ... を配置した状態で、その前面側に机を近接させて配置すると、図 1 及び図 2 に示すように、机 2 の天板 1 0 の高さ、前記収納体 3 の最上段の棚板 2 1 , 2 6 の高さが略同じであるので、天板 1 0 に連続して棚板 2 1 あるいは棚板 2 6 が位置し、該棚板 2 1 あるいは棚板 2 6 を手元棚として利用することができるのである。尚、前記上部空間 1 5 の高さが十分に確保できるのであれば、前記机 2 の天板 1 0 の上面の高さと略一致させる棚板 2 1 は最上段でなくても良く、上から二段目の棚板 2 1 でも良い。

【 0 0 3 1 】

尚、前記収納体 3 の高さを机 2 の高さと略一致させ、つまり机 2 の天板 1 0 の上面の高さと、収納体 3 の上面板 1 8 ( 2 4 ) の上面の高さを略一致させ、該上面板 1 8 ( 2 4 ) の上面を手元棚として利用するようにしても良い、あるいは特定の収納体 3 の最上段の棚

板 2 1 と他の収納体 3 の上面板 1 8 の高さを略同一に設定しても構わない。

#### 【 0 0 3 2 】

図 1 に示すように、机 2 の天板 1 0 の後部をミドルベッド 1 の前面側に近接させて配置すると、前記静置型ラック 3 A と移動型ラック 3 B の合計横幅と天板 1 0 の横幅が略一致するので外観性が良くなるとともに、天板 1 0 と棚板 2 1 が連続し、しかも棚板 2 1 の両側に側面板 1 9 , 1 9 が位置するので、該側面板 1 9 , 1 9 がブックエンドの働きをするので使い勝手が良くなるのである。また、図 2 及び図 4 に示すように、机 2 の天板 1 0 の側部をミドルベッド 1 の前面側に近接させて配置すると、前記静置型ラック 3 A の横幅と天板 1 0 の奥行幅が略一致するので外観性が良くなる。前記同様に、静置型ラック 3 A の棚板 2 1 を手元棚として利用できるのである。また、移動型ラック 3 B の棚板 2 1 も天板 1 0 に接近していて、着座したまま書籍等の物品を出し入れすることができるので、前記同様に手元棚として利用することができる。

10

#### 【 0 0 3 3 】

前記ボックス体 6 は、脚部の機能の他に、オープンラックとして使用することができる。他の収容体 3 との使用法と異なる使用形態として、ハンガーラックとして使用できるように、棚板は設けずに上面板 2 9 の下面に近い位置で両側面板 3 0 , 3 0 間にハンギングバー 3 1 を横設した構造のものである。勿論、前記ボックス体 6 の両側面板 3 0 , 3 0 の間に単又は複数の棚板を取付けることも可能である。

#### 【 0 0 3 4 】

本実施形態では、ミドルベッド 1 の空間部 1 4 の前面側寄りには、前述の静置型ラック 3 A、移動型ラック 3 B 及びタンス 3 C が位置し、そして空間部 1 4 の一側よりでタンス 3 C の後部には前記ボックス体 6 が位置し、図 4 に示すように、収納体 3 , ... の背後には広い空間部が残されている。ところが、前記ミドルベッド 1 の後面側は室内の壁面が位置する場合が多いので、この残余空間部に直接アクセスすることができない。しかし、本実施形態では、この空間部 1 4 の残余部分に普段は使用しない大型の物品を保管することができる。つまり、前記収納体 3 , ... の内、一つを移動型ラック 3 B としているので、該移動型ラック 3 B を前方へ移動させて、静置型ラック 3 A とタンス 3 C の間に通路を形成し、該通路を通して大型物品を出し入れすることができる。

20

#### 【 符号の説明 】

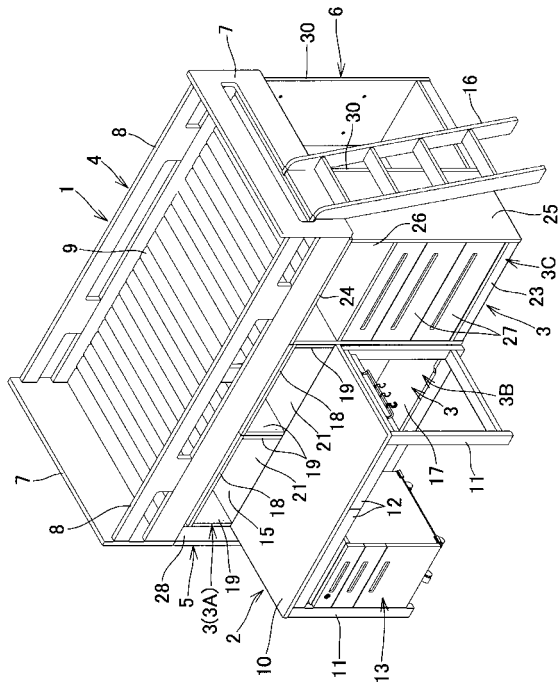
#### 【 0 0 3 5 】

- |     |         |     |          |
|-----|---------|-----|----------|
| 1   | ミドルベッド、 | 2   | 机、       |
| 3   | 収納体、    | 3 A | 静置型ラック、  |
| 3 B | 移動型ラック、 | 3 C | タンス、     |
| 4   | ベッド部、   | 5   | 脚体、      |
| 6   | ボックス体、  | 7   | 側部支持板、   |
| 8   | 側棚体、    | 9   | 床部材、     |
| 1 0 | 天板、     | 1 1 | 脚体、      |
| 1 2 | 引出し、    | 1 3 | ワゴン、     |
| 1 4 | 空間部、    | 1 5 | 上部空間、    |
| 1 6 | 梯子、     | 1 7 | 底面板、     |
| 1 8 | 上面板、    | 1 9 | 側面板、     |
| 2 0 | 背面板、    | 2 1 | 棚板、      |
| 2 2 | キャスター、  | 2 3 | 底面板、     |
| 2 4 | 上面板、    | 2 5 | 側面板、     |
| 2 6 | 棚板、     | 2 7 | 引出し、     |
| 2 8 | 調整板、    | 2 9 | 上面板、     |
| 3 0 | 側面板、    | 3 1 | ハンギングバー。 |

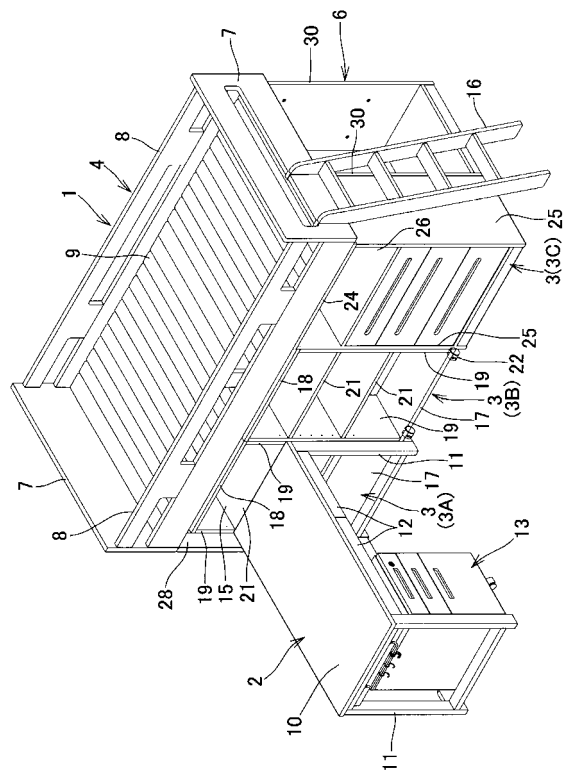
30

40

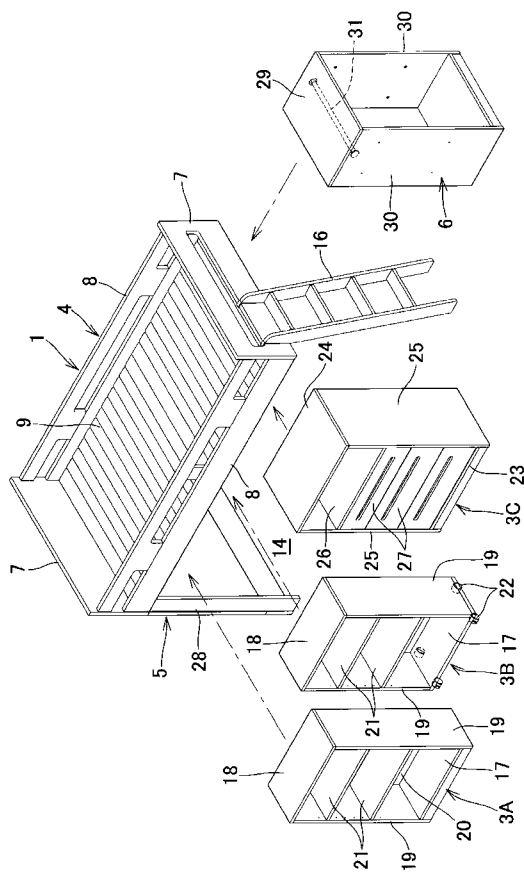
【図 1】



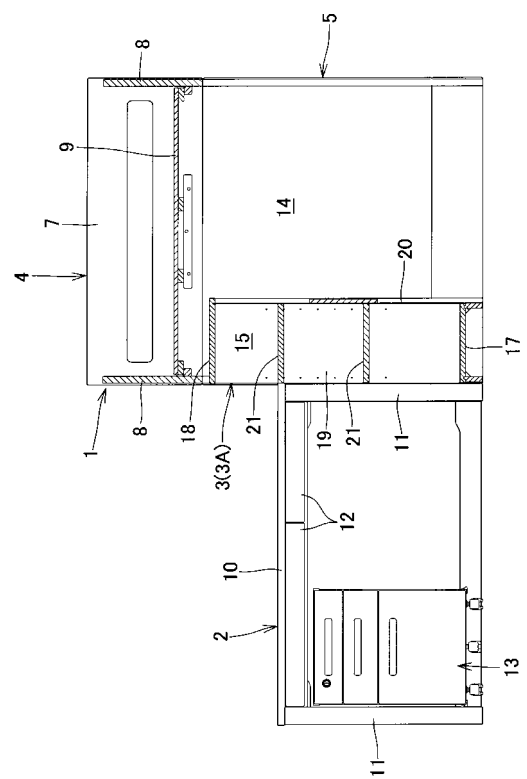
【図 2】



【図 3】



【図 4】





---

フロントページの続き

(72)発明者 藤本 有希

大阪市城東区今福東1丁目4番12号 株式会社イトーキ内

審査官 蔵野 いづみ

(56)参考文献 特開2008-301976(JP,A)

特開2008-011945(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A47B 83/04

A47C 19/22